

宇久中学校だより



令和5年7月13日 No.8



学校教育目標「ふるさとを愛し 主体的に学習し
自らの判断で正しく行動できる生徒の育成」

生徒会スローガン「こえる」

学校テーマ「凡事徹底」

佐世保市立宇久中学校

校長 江頭 正次郎

☎ 0959-57-2007

海 原



「社会を明るくする運動」中学・高校生弁論大会に出場しました



7月2日（日）にアルカス SASEBO で「社会を明るくする運動」中学・高校生弁論大会に本校3年生 狩集 芽依さんが「輝く 未来」という演題で出場し、中学生の部で見事、長崎新聞社賞を受賞しましたので、内容を紹介します。

私は宇久島が大好きです。私が母の転勤で宇久島へ引っ越したのは二年前のことです。初めて島をドライブしたとき、目の前に広がったのは真つ青な大海原でした。その一瞬で私は、宇久島の豊かな自然に魅了されました。宇久島を好きな理由は、景色だけではなく、宇久島の人々の温かさが何よりも大好きです。新しい場所、新しい友達になれることができるかとても不安だった私に、たくさんの優しさをくれました。

この宇久島の素晴らしさをもっと多くの人に知ってもらいたい！しかし、宇久島の人口はもちろん、観光客の数も年々減り続けています。その理由について、二つのことが頭に浮かびました。一つ目は「社会的問題」です。新型コロナウイルス感染症の影響や石油などをはじめとする物価の高騰など、私たちの手ではどうしようもない問題です。もう一つ、頭に浮かんだのは「景観の問題」です。何といても宇久島の魅力はきれいな海、豊かな自然です。しかし、よく見てみると、砂浜にはたくさんの漂流物が流れついています。それは明らかに私たちの日常生活から出るゴミです。また、道端に咲くきれいな花の隣には、タバコの吸い殻や紙くず、空き缶などが捨てられています。私は、それらのゴミを見るたびに心が痛みます。しかし、よく考えるとその景観の問題を引き起こしているのは、ほとんどが宇久島に住む私たち自身なのです。だからこそ、私たちの手で解決できる問題なのではないかと考えました。

私たちは年に一度、小中高合同の海岸清掃を行います。宇久島で一番観光客が訪れる「大浜海水浴場」を清掃する行事です。小中高校生だけではなく、地域の方々の力を借りて実施する、一つのイベントのようになっています。終わった後ゴミが無くなった砂浜を見渡し、宇久島のためになることができたと言った気持ちになります。しかし、次に砂浜を訪れたときには、ゴミがあります。「学校での取組だけではどうにもならない！」と考え、友人を誘って地域の海岸清掃にもボランティアとして参加しました。そこには、お年寄りから小さな子供まで、たくさんの人がいました。そのときもまた、終わった直後はみんなで協力し、海岸をきれいにするのができたという達成感でいっぱいになったことを覚えています。しかし、それも長くは続きません。

「もう、これしかない！ゴミをポイ捨てしない！」ありきたりではありますが、一人一人がこの気持ちを持つしかないので、私がそれを率先していきます。僅かなことかもしれないけれど、私と同じように宇久島を好きな人たちは周りにたくさんいます。みんなで力を合わせて、大好きな宇久島の景観を守っていきたいです。

私には夢があります。大人になってカフェを開くことです。何年先になるか分からないけど、そのカフェが宇久島でも開けたらいいなと思います。私は、もう一年もせずに高校進学のため、宇久島を出ます。宇久島で過ごした三年間は、かけがえのない宝物です。「第二のふるさと」である宇久島を守っていくために何かできることはないか。私も宇久島を大切に思う一人として、宇久島の輝く未来のために今日もゴミを拾いたいです。

佐世保市青少年の主張弁論大会に出場しました



今回は、7月8日（土）に佐世保市コミュニティセンターにおいて、2年生 安永 七菜さんが「紙一重」という演題で出場し、見事佐世保市PTA連合会長賞を受賞しましたので、内容を紹介します。

幸せとは一体何だろうか…？

昨日まで幸せだったのに、明日不幸になるかもしれない。昨日まで不幸だったのに、明日幸せになるかもしれない。今まで当たり前だと思っていたことが、ある日突然変わってしまうかもしれない。誰しもが明日も生きられる確証はない。人生はある日、突然終わりを迎える場合がある。努力しても、予防線を張っても、変えられないときはある。

うれしいと悲しい、好きと嫌い。幸せと不幸をはじめとして、正反対にあるものはすべて「紙一重」のところにありと私は考える。例えば、大好きな人と出会う。そうすると、毎日その人のことを考えてとても幸せな気持ちになる。でも、少しケンカをするだけで不安な気持ちになり、その人が自分の元からいなくなってしまうと世の中で自分が一番不幸なのだと錯覚するくらい悲しくなる。好きだから幸せ、幸せだと悲しくなり、悲しくなると不幸になる。これはきっと私だけがそうなのではない。世界三十か国、約二十万人に向けた調査でも、約五十%の人が「恋人と一緒にいるときに幸福を感じる」と答えている。また、国内の十八歳以上の三百人に向けた調査では、恋人の浮気について、「好きだからこそ傷ついてしまい、許せない」という理由が一番多いという結果がでている。

このように、様々な「紙一重」を生きている私たちにできることは何か。それは、「今、一瞬一瞬を大切に、精一杯生きること」だ。自分が不幸だからと決めつけ、幸せそうな人を羨むのではなく、あと紙一重の差で手に入るかもしれない幸せに向かって今の自分にできる行動をとるのがいい。どんなに悲しくてもどんなに辛くても、すぐ近くに幸せが待っている。あと一步を踏み出す勇気が必要だけ。そう信じて過ごす方が、毎日が明るくなるはずだ。

私には夢がある。妊婦さんに寄り添い、信頼される助産師になることだ。そこで改めて今の自分を見つめ直してみた。私の武器はなんだろう。私は、学校生活の中で常に自分で目標を定め、その目標に向かってやるべきことを考え、行動している。私のこの習慣は夢を叶えるための武器になるのではないだろうか。逆に弱みはなんだろう。私は、自分の思ったことをストレートに相手に伝える癖がある。いつも口に出してしまった後で、相手を不快にさせたかもしれないと後悔する。私が直さなければならないのはここだ。あっという間に、中学校生活も残り一年半ほどになってしまった。クラスメイトや他学年とのつながりを大切にすることで、周りの人の気持ちに寄り添い、信頼される人になれるようにしたい。

今、こうしている間にも、私たちは命の終わりに向かっている。今しかできないことがたくさんある。その中で、傷ついたって、何かを失ったって、それも生きているからこそできること。「紙一重」の現状はいくらでもひっくり返る。楽しいこと、うれしいこと、幸せなことを手に入れるため、私は今日も精一杯生きる。

二人とも日頃学校生活で感じていることを、文章に表現しました。そして、代表となり本校国語科の小林先生の指導のもと、練習を何度も繰り返し当日を迎えました。各会場で堂々と弁論を発表する本校生徒をみて、感動とともに、宇久島の宝として誇らしく感じました。緊張の中、胸を張って弁論大会に出場してくれた二人に大きな拍手を送りたいと思います。

